



【新幹線定期報告】

令和4年4月22日
新幹線事業対策室

1. 概況 (西九州新幹線(長崎～武雄温泉)の進捗)

令和4年3月末時点での工事進捗および用地進捗状況は下記のとおりとなっている。

○工事進捗状況(長崎～武雄温泉) (R4.3月末時点)

区分	進捗状況		
土木工事	工事延長 67.0km (長崎県 49.2km、佐賀県 17.8km) ・本線土木工事は、R2.9.23をもって完成率が100%となった ・土木の付帯工事は、引続き実施中 ・長崎県内の主要な土木工事 40 工事中 34 工事が竣工		
建築工事	駅舎工事	新大村駅	令和4年3月11日竣工
		諫早駅	令和4年3月16日竣工
		長崎駅	令和4年3月7日竣工
軌道工事	レール敷設は、令和3年11月末に、ルート全体で約66km、長崎県内では約49kmの施工が完了し、完成率が100%となった なお、脱線防止ガードの設置は引き続き行われ、令和4年3月までに鉄道・運輸機構で全体の4割強(約30km)が完了し、残りは開業後にJR九州で行われる予定		
電気工事	一部の設備(駅の電話機など)を残しほぼ完了 (ルート全体の電気工事進捗率は約96%) 4月上旬に電車線設備(本線)の完成検査が行われ、4月中旬には信号、通信及び電力設備(それぞれ本線)の監査・検査が行われる予定		
機械工事	3月末までに県内3駅のエレベーター、エスカレーター及び可動式ホーム柵それぞれの試運転調整が完了 4月からは出改札設備の配線工事が行われる		
大村車両基地	本体工事は令和4年3月19日に完成し、緑化や車両基地の外周道路などといった付帯工事を実施中		

※鉄道・運輸機構からの情報をもとに、当室にて整理したものである。

※土木工事の完成については、トンネルは覆工完了、高架橋・橋りょうはスラブコンクリート完了、路盤は施工基面完了をもって、完成と整理されている。

※軌道工事の完成率は、高さなどの最終調整まで完了した率を示している。

※電気工事の完成率は、設備の設置が完了した率を示しているが、最終的には諸試験の合格をもって、工事完了となる。

※前回からの更新箇所を朱書きとしている。

○用地取得実績(長崎県内) (R4.3月末時点)

長崎県全体	東彼杵町	大村市	諫早市	長崎市	全体
取得予定面積 (地上権設定含む)	7.7 ha	33.9 ha	20.0 ha	10.4 ha	71.9 ha
取得済面積 (地上権設定含む)	7.7 ha	33.7 ha	19.9 ha	10.4 ha	71.7 ha
進捗率	100%	99%	99%	99%	99%

※鉄道・運輸機構からの情報をもとに、当室にて整理したものであり、四捨五入により計が合わない場合がある。

※買収予定面積は、用地丈量、設計、協議の進捗に伴い変更を行う。

※前回からの更新箇所を朱書きとしている。

2. 入札公告・結果

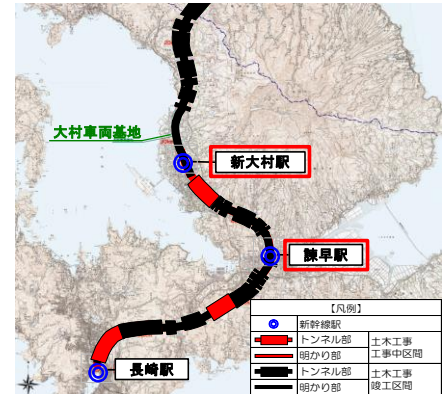
令和4年3月15日から4月21日までに、工事1件（佐賀県1件）、役務1件（長崎県1件）の入札が行われた。

3. 工事の竣工

令和4年3月11日に新大村駅、令和4年3月16日に諫早駅の駅舎建築工事がそれぞれ竣工した。

今後は、設置された電気設備と機械設備の試運転調整が行われることとなっている。

これらの工事の竣工により、西九州新幹線で建設される5つ全ての駅舎建築工事が竣工となった。



○新大村駅

工事名：新大村（仮称）駅新築 施工箇所：大村市植松町
受注者：五洋・梅林・高瀬 JV 工期：H31.1～R4.3
ホーム：2面2線（相対式）、全長160m

デザインイメージ「新しい街の玄関口、こころ踊るふれあいの駅」をもとに、新しい街の玄関口として、大村の発展と人々の躍動を表現している。

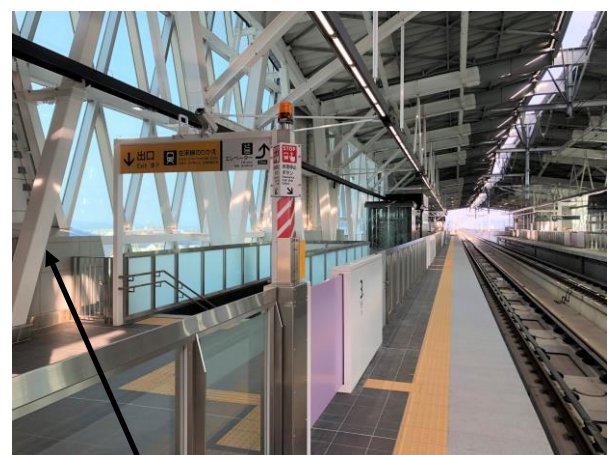
外装の空に向かって開く形状は未来への広がりや大村の発展を表し、ガラス以外の外壁の色彩は落ち着いた色合いとすることで、歴史的な雰囲気演出している。

※五色塀（ごしきべい）とは、色とりどりの海石（いくり）を漆喰で塗り固めた大村藩独特の石塀で、主として武家住宅の周りに築かれていたものである。

外壁は五色塀をイメージしているため、石調のゴツゴツとした材料を使用



外観（さくら口（東口）側）



ホーム

ホーム上屋の鉄骨は、外壁の形状に合わせてV字形となっている

※このページの写真は全て「JR TT 鉄道・運輸機構」より提供（令和4年3月撮影）

天井の木材は長崎県産杉を使用し、斜め天井により多良山系を表現

五色塀を再現したスクリーン



提供：JRTT 鉄道・運輸機構

場外コンコース



提供：JRTT 鉄道・運輸機構

場内コンコース

ランダムに色の異なるタイルを配置し大村湾のきらめきを表現

大村市民が描いた花しょうぶを転写した波佐見焼のタイル

○諫早駅

工事名：諫早駅新築工事

施工箇所：諫早市永昌東町

受注者：九鉄・西松・堀内 JV

工期：H30.6～R4.3

ホーム：2面2線（相対式）、全長160m

デザインイメージ「明るい未来へ繋がる、おもてなしのゲート」をもとに、人々の賑わいを映し出す大きなガラス面を中央に、落ち着いた色のある諫早石調の外装を端部に配置して、諫早らしさと未来を映し出すゲートを表現している。

西九州新幹線唯一の地上ホーム



提供：JRTT 鉄道・運輸機構
至 武雄温泉駅

至 長崎駅

外観（西口側）

諫早石を表現



諫早駅

JR 長崎本線

至 武雄温泉駅

駅北側より駅を望む

全面ガラス張りのため地上から新幹線の発着の様子を見ることが出来る

ランダムな白線は諫早市内を流れる本開川の流れを表現

※このページの写真は全て令和4年3月撮影

天井の黒いラインは諫早が交通の結節点であることを表現



ホーム



場内コンコース

ガラススクリーンに使用されている押し花は、諫早市で採れた四季の花（菜の花、紫陽花、秋桜、山茶花）を使用

※上記2つの写真は「JRTT 鉄道・運輸機構」より提供（令和4年3月撮影）

4. 大村車両基地の完成記念式典及び見学会

令和4年3月19日と20日の2日間、大村車両基地の見学会が開催されました。

大村市竹松町に建設された大村車両基地は、西九州新幹線で走行する新幹線車両の日常的な整備・点検を行うための施設で、西九州新幹線において唯一の車両基地である。

今回、大村車両基地が完成したことに伴い、完成記念式典と車両基地内の見学会が行われた。

19日の午前中に、完成記念式典が行われ、主催者である鉄道・運輸機構の河内隆理事長、JR九州の青柳俊彦社長と、来賓を代表して大石賢吾長崎県知事、園田裕史大村市長のあいさつがあり、その後、完成を祝してテープカットが行われた。

式典終了後には、式典出席者による車両基地と令和4年1月に基地に搬入された新幹線車両「かもめ」の見学が行われた。



大石賢吾長崎県知事



園田裕史大村市長



テープカット



車両基地建物内を見学する様子

19日の午後からは、約500人が参加した鉄道・運輸機構主催による沿線自治体住民等の見学会と、約600人の参加となった大村市主催による大村市民向けの見学会が実施された。

見学会では、鉄道・運輸機構の職員から、建物内に設置されている車両の整備・点検を行う機械設備についての説明が行われ、走行試験に向けて整備が行われている新幹線車両を間近に見ることもできた。

また、新幹線車内が初めて一般の方へ公開され、実際に車内に入り新車の真新しい香りを感じながら、シートの座り心地を確かめたり、JR九州の職員から指定席と自由席の違いの説明を受けたりなど、一足先に車内の雰囲気を楽しんでいた。



車両基地建物内を見学する様子



新幹線車両を見学する様子



新幹線車内を見学する様子



車両をバックにした撮影スポットの様子

翌 20 日には、約 2,600 人の参加となった JR 九州主催による一般向けの見学会が行われた。

最初に、地元の園児による出発式が行われ、園児の元気な「出発進行」の掛け声により見学会が始まった。

見学会は前日と同様の内容で行われ、参加者の中には新幹線車両の座席を向かい合わせにして座る方もおられ、新幹線での旅行を想像しながら楽しそうな様子で、令和 4 年 9 月 23 日の新幹線開業を心待ちにされていた。



地元園児による出発式の様子



車両基地建物内を見学する様子



新幹線車内を見学する様子



なお、市民向けと一般向けの見学会は、それぞれ定員の約 10 倍の応募があり、皆様の関心の高さがうかがえるものとなった。

また、西九州新幹線関連グッズや、JR 九州が現在実施していた「スイーツグランプリ・駅弁グランプリ in 西九州」にエントリーしている商品の販売も行われ、こちらも多くの方が訪れ賑わいをみせていた。



販売会場の様子

5. 新幹線車両「かもめ」の輸送（第2弾）

令和4年3月24日から29日にかけて2回目の車両搬入が行われ、1回目と同じ経路にて1編成6両の搬入が行われた。

これで搬入が予定されている4編成のうち2編成が搬入されたこととなった。



輸送経路図

今回も、車両の搬入は、報道関係以外へは非公表であったにもかかわらず、輸送途中の川棚港や、川棚港から大村車両基地までの沿道などには、新幹線車両を一目見ようと多くの人がかけて、輸送の様子を見守った。



川棚港での陸揚げの様子



川棚港を出発する様子



東彼杵町役場付近の歩道橋の下をすれすれで通過する様子



大村市の桜馬場交差点を曲がる様子



都市計画道路池田沖田線から車両基地へ入る様子



車両基地入口付近で搬入を見守る人々の様子

6. 車両「かもめ」の本線初走行

鉄道・運輸機構から、西九州新幹線（長崎～武雄温泉）で使用される車両「かもめ」が、JR九州と合同で実施する走行試験のため、令和4年5月10日に初めて本線を走行することが公表された。

走行試験は、令和4年5月10日から6月16日までの期間の中で、延べ15日程度行われる予定である。

また、初走行時には、新幹線の各駅で、地元自治体主催の歓迎イベントが実施される。（長崎県内の3駅は5月10日、佐賀県内の2駅は5月11日）

詳しくは、鉄道・運輸機構の公表資料をご覧ください。

【鉄道・運輸機構のホームページ掲載先】

https://www.jrtt.go.jp/corporate/public_relations/pdf/220422_nishikyushu_shinkansen_test.pdf



車両基地に搬入された車両「かもめ」（令和4年1月撮影）